

《カリキュラム・マネジメント評価表》

学校番号	高等学校名	課程	指定事業等(国・県ほか)
28	県立海洋高等学校	全日制	

重点度	項目	現状分析と課題[R3]	目標【GOAL】	取組【PLAN】⇒実施状況【DO】	検証【CHECK】	対応【ACTION】
					成果	次年度[R4]への課題と取組の方向性
1	学習指導(教育課程)	【現状】令和4年度からの新学習指導要領に向けた教育課程の編成及び観点別評価について構築している。今年度中には、教育課程の編成、3観点別の評価方法、シラバスの作成、教科書選定等について完成させる必要がある。 【課題】不確定な部分が多くあるため、一つひとつ確実に共通理解を図りながら進めていく必要がある。	・新学習指導要領に向けた教育課程の完成。 ・令和4年度シラバス作成 100%	・新学習指導要領に向けた教育課程の取組⇒○ ・令和4年度シラバス作成への取組⇒○	・新学習指導要領に向けた教育課程が完成した。100% ・令和4年度のシラバスを完成させることができた。100%	【課題】教科横断的な学習をさらに効果的に進めていく必要がある。 【取組の方向性】新学習指導要領の実施における評価については今年度策定したものを実践しながら、より良い評価の在り方について検討を重ねていく必要がある。
3	進路指導 キャリア教育	【現状】昨年度は、コロナ禍で進路行事が中止や延期を余儀されるなか、水産海洋関連企業への就職40%海洋関連学校への進学20%の結果を残した。 【課題】水産海洋関連企業の新規開拓。	・水産海洋関連企業への就職 50% ・水産海洋関連学校への進学 30%	・進路行事実施に向けた取組⇒○	・水産海洋関連企業への就職 60% ・水産海洋関連学校への進学 35%	【課題】 ・水産海洋関連企業への就職 55% ・水産海洋関連学校への進学 35% 【取組の方向性】 ・企業とのミスマッチがないように進路行事の充実を図る。 ・コロナ禍におけるオンライン環境の整備を図る。
	生徒指導	【現状】地域に愛される海洋高校生を目標に、身だしなみや挨拶を重点的に指導して一定の成果を上げてきた。グローバル化や多様化などが重要視される今、服装に関する規定、頭髪に関する規定、交通に関する規定、その他の規定や指導について見直し、改正を行う必要がある。 【課題】服装規定は、人権に配慮し、時代に合ったものに見直ししていくことが求められているため、生徒や保護者もプロセスに参画し、一つひとつ確実に共通理解を図りながら進めていく必要がある。	・時代に合った指導の見直し、校則の改正 ・校内規定の作成 100%	・時代に合った指導の見直し、校則改正への取組⇒○ ・校内規定作成への取組⇒○	・時代に合った指導・校則へ改正した。 ・新しい校内規定を完成させることができた。	【課題】 ・校則の内容や必要性については、さらに継続して見直ししていく必要がある。 ・地域住民の理解や協力を得るため、校則の可視化を進めていく必要がある。 【取組の方向性】 ・本年度改定した服装規定に則り、生徒指導を推進していく。よりよい校則の在り方については、今後も生徒が主体的に考え、取り組みに参画できるよう検討を重ねていく必要がある。
	特別活動(部活動は含まない)	【現状】コロナ禍で多くのイベントが制限される中、できる範囲内ではあるが、生徒会の自主的な運営は比較的よくできている。 【課題】昨年度はクラスマッチやみんなの海洋高校プロジェクト、地域のイベントなど、生徒会が活躍できる多くの行事が中止となってしまった。	・学校評価の学校行事に関する生徒アンケートで、肯定的意見を70%以上にする。	・昨年度実施できなかったクラスマッチが実施できたが、海洋祭は中止となってしまった。	・学校評価アンケートの結果、学校行事に関する満足度で肯定的意見が50%台にとどまった。	【課題】 ・長引くコロナ禍で、行事のあり方を検討していく必要がある。 【取組の方向性】 ・行事の内容の見直しを含め、無理のない計画をたてていく。
	組織運営(働き方改革)	【現状】定時退勤できない教職員が大多数である。 【課題】慣例となっていることが多く、働き方改革についての意識が低い。	・ICTを活用し、業務の負担軽減を行う。20%減	・水曜日のみ集合しての職員朝会とし、その他はGoogleClassroomを活用する⇒○ ・Googleフォームを活用することで、アンケート集計等の負担軽減することができた。100%	・職員朝会をGoogleClassroomで行うことにより、SHRの準備や1限目の授業、その他の雑件をそれぞれのペースで余裕をもって行えるようになった。90% ・Googleフォームを活用することで、アンケート集計等の負担軽減することができた。100%	【課題】 ・全職員で意識し、業務の負担軽減を実現していく必要がある。 ・ICTを活用するだけでは、解決できないこともある。 【取組の方向性】 ・今後も引き続き、働き方改革を推進していく。
2	教育環境整備	【現状】ICTを活用した学習活動について、現段階では積極的に取り入れている授業は数少ない。 【課題】タブレット端末や電子黒板等の整備を充実させる。また、誰でも手軽に使用できるよう研修を行い、機器に慣れる必要がある。	・ICTを活用し、全ての教員がオンラインでの授業を行えるようにする。100%	・ICT機器を使った授業を展開できるための教員研修⇒○	・全ての教員がICTを活用して授業を行えるようになった。 「ICT機器を取り扱える教員100%」	【課題】 ・ICTを使用することを目的とするのではなく、いかに有効的に活用し、生徒の"より良い学び"のために各々が実践していくことが必要である。 【取組の方向性】 ・ICTを活用した主体的対話的な学習方法を模索していく。
	地域との連携(保護者、地域住民等)	【現状】コロナ禍により保護者や地域住民との交流については、予定通り実施できないこともある。 【課題】安全対策を取りながら、生徒の教育活動を維持するために地域との交流や保護者参加の行事や企業実習を行えるか検討する必要がある。	・日々変わる感染状況の中ではあるが、地域や企業との連携を進める。	・企業実習の取組⇒△ ・学校間の交流の取組⇒○	・企業実習については、何度も企業との打ち合わせを重ね準備を行ったが、新型コロナ感染拡大により実施できないことが多くあった。60% ・学校間の交流に関しては、感染予防に配慮しながら最大限の活動を行うことができた。80%	【課題】 ・新型コロナ感染拡大により実施できない行事があった。 【取組の方向性】 ・例年とは時期をずらして行事を実施する必要がある。 ・安全対策を配慮しながら、さらなる地域や企業との連携を図る。
	保健管理 安全管理	【現状】生徒及び職員の健康診断を計画的に実施。 教育的及び職場的な健康・安全を目的とした巡視活動の実施。 【課題】受診の漏れ者対応、及び結果の活用を呼びかけ。巡視結果の効果的な活用。	・該当者の健康診断完了及び結果を踏まえた効果的活用ができる状態にする。	・年間計画の作成及び実施、実施予定の案内、事後結果活用案内 ⇒ ○ ・漏れ者への対応 ⇒ ○	・計画的に健康診断を実施できた。100% ・計画的に校内の巡視が実施できた。90%	【課題】 ・コロナ禍における環境下で、例年通りの活動が難しくなっている。新しい情報を的確に活用できるよう、常に研修をしていく必要がある。 【取組の方向性】 ・情報収集や情報交換の機会を充実させていく。
	研修(資質向上の取組)	【現状】多様な生徒への対応やICT機器を導入した授業について、個人個人がスキルを向上させる機会が、少ない。 コンプライアンスの意識向上に向けた更なる研修の必要がある。 【課題】ICT機器を活用した授業展開を行うための研修が必要である。コンプライアンスを意識し、より安心・安全な学校を目指す。	・特別支援の手法を取り入れた、生徒全員に分かりやすい授業を展開するための研修を行う。	・研修の計画・実施に向けた取組⇒○	・研修を計画的に実施できた。80% ・各自、授業のユニバーサルデザインに向け工夫を行った。60%	【課題】 ・研修に参加したくとも生徒の対応等があり、教職員が参加できないことが多くある。 【取組の方向性】 ・全職員が研修に参加できるよう計画を行う必要がある。
	情報提供(広報、生徒募集)	【現状】近隣の小中学生への最大のPRである"みんなプロ"がコロナ禍により、実施が困難な状態である。また、中学生対象の学校説明会の在り方について、検討が必要である。 【課題】本校について中学生やその保護者に十分なアピールができていない。学校HPの更新があまり行っていない。	・コロナ禍において、感染予防を徹底しながら、効果的な学校説明会の運営を行う。	・8月学校説明会実施に向けた取組⇒○ ・11月学校説明会実施に向けた取組⇒○	・例年を上回る多くの中学生が学校説明会に参加してくれた。これは、HPやポスター等のPRによって興味関心を持ってくれた人が増えたためと考える。「一昨年度の参加者より28%増」	【課題】 ・本校のよさを多くの方にPRできるよう、HPやインスタグラム等の内容を充実させていく必要がある。 【取組の方向性】 ・HPやインスタグラムでの発信だけではなく、中学校訪問や学校説明会など、直接お会いしてアピールすることも充実させていく。